

インフルエンザ特集

くろ だより

最新の救急・集中治療をお送りするフリーペーパー
そう、君の名はくろだより
第003号 救急科

流行の中心地、白十字病院にはB型も

西地区流行へ

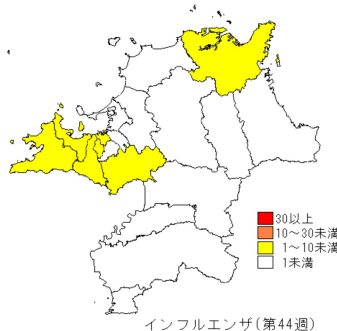
十一月十日職員対象のインフルエンザ予防接種が終了した。福岡市西区では十月中旬から下旬にあたりはま幼稚園を皮切りに3幼稚園で学級閉鎖が行われた。西区は同時期に県内で最も患者数が報告され、現在も早良区と西区での発

やはりワクチンが重要

子ども接種が高齢者を救う

2017年8月にランセットでインフルエンザのセミナーが行われた。その中で予防にはワクチンが最重要とし、65歳以上、妊婦、小児、免疫不全、医療者に推奨した。日本は1962〜1987年まで学校でワクチン強制接種を行っていたがその後中止。それに伴全死亡率と老人死亡率が上昇

生数が多い。十一月五日時点でも白十字は患者の中心に位置し十七日にはまさかのB型が受診した。今回は当院流行中心地区を記念し最新の知見を紹介する。



インフルエンザ(第44週)

二峰性発熱は細菌性肺炎を疑え

ウイルス自体も両側びまん性の肺炎を来し死亡率が高いが、一端解熱し4〜14日目に再度発熱し、呼吸器症状が出現した場合はPNS

新薬発売へ

塩野義製薬は1回内服の抗インフルエンザ薬を申請。早ければ来シーズンには間に合う模様。

重要なのは11g

乾燥はウイルスの生存率が高くなると言われるが、重要なのは普段の相対湿度ではなく1m³中の水蒸気量である絶対湿度11g以上が判明。また相対湿度50%未満や100%近くで気道の防御機能が低下し感染する。下記赤枠の範囲で気温と湿度を調節だ。

【絶対湿度表】

		相対湿度									
		30	35	40	45	50	55	60	65	70	
気温	30	9.1	10.6	12.1	13.7	15.2	16.7	18.2	19.7	21.3	
	28	8.2	9.5	10.9	12.3	13.6	15.0	16.3	17.7	19.1	
	26	7.3	8.5	9.8	11.0	12.2	13.4	14.6	15.8	17.1	
	24	6.5	7.6	8.7	9.8	10.9	12.0	13.1	14.2	15.3	
	22	5.8	6.8	7.8	8.7	9.7	10.7	11.7	12.6	13.6	
湿度	20	5.2	6.1	6.9	7.8	8.7	9.5	10.4	11.2	12.1	
	18	4.6	5.4	6.2	6.9	7.7	8.5	9.2	10.0	10.8	
	16	4.1	4.8	5.5	6.1	6.8	7.5	8.2	8.9	9.6	
	14	3.6	4.2	4.8	5.4	6.0	6.6	7.2	7.9	8.5	
	12	3.1	3.6	4.1	4.6	5.1	5.6	6.1	6.6	7.1	

□内は、11g/m³ 超となり、インフルエンザの流行しにくい湿度

検査と治療は

ウイルス排出は発症1〜2日前から始まりピークは発症1〜2日、1週で消失。無症候性の場合不明。診察にはサージカルマスク・

気管支鏡時はN95を推奨した。

各種治療は発症48時間以内が効果的だが、健康人には症状を1日未満短縮する程度、重症で肺炎を44%、入院期間を63%短縮死亡率を19%減らすとした。

編集後記

産業界でも話す時期になりました。最新の知見共有で診療に望みたいですね。加湿器は加熱式・気化式・超音波式があり衛生面で加熱式(象印・三菱)がおすすめです。(総合家電アドバイザー黒田)

1人が罹患すると1,200人〜最大3人にうつし、人口の10〜20%が発症。流行を防ぐには集団の50〜67%に免疫獲得が必要と発表。(ランセットと国立感染症研究所感染症情報センターより)

二峰性発熱は細菌性肺炎を疑え

ウイルス自体も両側びまん性の肺炎を来し死亡率が高いが、一端解熱し4〜14日目に再度発熱し、呼吸器症状が出現した場合はPNS